

「仲間と星を観る」

キャンプファイヤーは、仲間と炎を囲んで親睦を深めるイベントです。キャンプファイヤーでもたき火でも囲炉裏でも、炎を囲むと、不思議と仲間意識が高まるものです。「仲間と星を観る」という体験も、ちょっと特別な意味があるように思います。先日も、大学の連携研究の「理科部会」の時に、小学校の屋上で水星と金星の観察をしました。参加したのは、小学校、中学校、高校の教諭、それに大学の理科の先生と、豪華絢爛なメンバーでした。



その日の東京は快晴。恐ろしいほど美しく空が澄んだ宵でした。屋上からは、かつては富士山や雲取山も見えましたが、その後大学やその周辺の建物が増えてしまいました。しかし、南東～北東は比較的開けていて、地平高度 5° を超える天体は、観察することができます。目視で観察する者、写真を撮る者、三脚を構えるもの、スマホを夜空にかざして星座を探すもの・・・思い思いに楽しみました。

やがて、水星と金星が南西の空の地平線に近づき、理学部の建物の陰に、ゆっくり沈んでゆきました。「きれいでしたね！」と言い合って、冬の宵の天体ショーはお開きとしました。

「沈む金星と水星」
本校屋上（文京区）
撮影；C. Tanaka
2015, -1, 13 / 17:40 頃



太陽系の星を見ながら、とても豊かな時を過ごせたように感じました。同じ研究をする仲間がいたからでしょう。昔のように、子どもたちを夕方の屋上に集めて、「天体観望会」をしたら、きっと楽しいだろうなと、ふと思いました。

(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)